平成23年12月25日発行

No.26

■ 発　行 ／ 神戸市灘区六甲台町1
神戸大学農学部内 六篠会（りくそうかい）
（神戸大学農学部同窓会）
■ 連絡用 FAX : 078-881-2752
■ E-mail : ans-rikusou@edu.kobe-u.ac.jp

六篠会報



CONTENTS

● 六篠会長の挨拶 ……2
● 学部長の挨拶 ……3
● 神戸大学理事・副学長……4
● 学友会だより ……5
● 同窓生は今… (1)三浦　恒夫……6
(2)川澤　和一十……7
● 第5回ホームカミングディの開催 ……8
● 六篠会代議員総会報告 ……9
● 創立60周年記念事業の決算報告……10
● 支部便り (1)KōBE 六篠会……11
(2)県六篠会 ……12
(3)関東支部 ……13
(4)東海・広島支部 ……14
(5)延喜会・KUCの活動 ……15
● 研究室紹介 (1)園芸保蔵利用学 ……16
(2)水環境学 ……17
(3)微生物機能化学 ……18
(4)細胞機能制御学……19
● 六篠業績賞 ……20
● 六篠奨励・学生賞 ……21
同窓会報告 (1)庶務報告 ……22
(2)六篠会賞受賞者一覧 ……23
(3)一般事業・慶弔関係……23
● 22年度決算報告 ……24
● 23年度予算報告 ……24
● 同窓会事務局の案内 ……24
● 編集後記 ……24

会長挨拶



六篠会会長 **北浦　義久**（兵A6回）

六篠会員のみなさん、お元気で国内外において各々の分野で存分にご活躍のことと、心からお慶び申し上げます。

今年は3月11日の東日本大震災と同時に発生した大津波による被害に加えて、福島原子力発電所の事故による放射能災害が重さなり、現在も終息せず、国民に大きな不安を抱かせています。

一方、異常気象による集中豪雨によって、全国各地で土砂崩れや水害の被害を蒙る等、厳しい1年でした。

又、内政においても菅内閣が総辞職して、野田内閣が生れる等大きな変化がありましたが、世界的な金融危機の中でわが国の経済も依然として停滞を続け、明るい展望が開けて来ない現状にあります。

こうした背景の下、わが母校神戸大学農学部は62年の歴史を重ね着実に歩み続けています。

わが同窓会「六篠会」も会員のみなさんの力強い支援の下、大学の発展と同窓生のみなさんの絆を強め、一層の活躍を念じて活動を続けています。

特に、昨年から今年にかけては、大学全体で取り組んでいる「神戸大学ビジョン2015」の実現を図るために創設された「神戸大学基金」造成に対して、広く会員のみなさんに協力を要請して来ましたが、幸い多くの方々からご寄附をいただき、基金造成に協力する事が出来ました。

ご協力いただいた会員の方々に厚くお礼を申し上げると共に、まだご協力いただけていない会員のみなさんには、引き続き募金活動を続けておりますので是非ご賛同いただきご協力下さいますようお願い申し上げます。

さて本年度の代議員総会を5月29日神戸市で開催しましたが、遠く関東支部や東海支部からも出席いただき提出議案について慎重審議のうえ全て原案通り可決決定いただきました。

さらに東日本大震災に対しまして、募金に協力する事とし六篠会から神戸新聞社厚生事業団を通じ18万6千円余を寄託しました。

この他、全学的な行事として実施されているホームカミングデイ（10月29日）にも多くの同窓生の参加をいただきました。午前中の記念式典に引き続き、午後からは農学部主催の行事が展開されました。

主催行事に先立って県六篠会の創立30周年記念総会が開催されました。

主催行事では、六篠会が平成22年度に創設した「六篠賞」の授与式を行った後、受賞者による記念講演、続いて同窓の企業関係者並びに県関係者の情勢報告がありました。

その後、場所を代えて懇親会が開催され参加者相互の交流の輪を広げる事が出来ました。

こうした行事に参加すると共に全学的な学友会活動やKUC活動にも積極的に参加しています。

又、各支部においても総会や研修会を開催されています。今年も、関東、東海、広島、KOBE六篠会でそれぞれ特色のある行事が展開されました。

最近大学の施設も充実強化されると共に教育内容も改善され、それに伴って志望者も増え、優秀な学生が入学されていると伺っており、我々同窓生としてもこの上ない喜びを感じております。

六篠会員のみなさんもそれぞれの地域で又、色んな立場で活躍されていると思いますが、母校神戸大学農学部への熱い思いを持ち続け、母校の発展そして日本の発展のためにいささかでも貢献しようではありませんか。

会員のみなさんの益々のご健勝でのご活躍を祈念し、ご挨拶とします。



農学部近況報告 11

大学院農学研究科長・農学部長 内田　一徳



愛犬マリンと(2011.10)

実りの秋を過ぎ、六甲山の紅葉とともに、日に日に寒さが増す今日この頃です。六篠会会員の皆様には益々ご清祥にご活躍のこととお慶び申し上げます。

まず、10月29日開催のホームカミングデイには、30周年を迎えた兵庫県六篠会関係者の皆様をはじめ、多数の六篠会会員の方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。今年から、六篠賞の授与式と受賞記念講演の実施、および退職されました先生方との懇談会も、このホームカミングデイにあわせて実施させていただき、笑顔と話題の絶えない楽しいホームカミングデイとなりました。今後もできるだけ多くの六篠会会員の皆様がホームカミングデイにご参加いただき、卒業生と旧教員の方々、ならびに現役の学生や教職員との交流を深めていただけるよう、いろいろな工夫をしていきたいと思いますので、どうかよろしくご協力賜りますようにお願いいたします。

今年も、会員の皆様に、農学部の明るい元気なニュースをお届けしたいと思います。

まず、今年3月にF棟の改修が終わり、すべての学舎の改修が完了しました。周辺の道路の整備や木々の手入れもなされ、緑豊かな安全な環境の中で、教育研究を実施できるようになりました。六篠会からご寄贈いただきました大型パネルテレビは、A棟1階の学生ホールを飾っており、学生たちの憩いの場として大変喜ばれております。農学部にお立ち寄りの際には、この学生ホールを含め、きれいになりましたキャンパスを是非ご覧いただければ幸いです。お陰様で、過去2年間、8月のオープンキャンパスには1日で2千人を超える高校生と保護者が集まり、学内でも注目されております。さらに、今年の入試における志願者数は938名と、過去数年間の700名台の志願者数を大きく上回り、平均志願者倍率も工学部を抜きました。

次に、うれしい受賞のニュースです。多くの先生方が学会賞や論文賞を受賞されておりますが、中でも、万年英之教授が「平成23年度日本農学賞・読売農学賞」を受賞されました。平成22年度には、芦田均教授と福田伊都子助教が「第18回生物工学論文賞」、笹崎晋史講師が「日本畜産学会奨励賞」、朴杓允教授・土佐幸雄教授・中屋敷均准教授・池田健一助教が「日本植物病理学会論文賞」、河端俊典准教授が「農業農村工学会論文賞」、庄司浩一准教授が「農業機械学会関西支部賞」を、それぞれ受賞されました。また、宅見薫雄准教授が「日本学術振興会科学研究費補助金審査委員表彰」を、食資源教育研究センター技術職員13名の皆様が「平成23年度学長表彰特別賞」を受賞されました。心から祝福したいと思います。誠におめでとうございました。益々のご精進とさらなるご発展をお祈りします。

次は、教員の異動についてです。昨年度は、定年延長のため、教員の定年退職者はおられませんでしたが、今年度末に応用動物学講座の長谷川信先生、応用植物学講座の寺井弘文先生と稲垣昇先生、農環境生物学講座の朴杓允先生がご退職の予定です。一方、新規採用人事は6名ありましたが、このうち4名が、昨年度から開始されました『女性研究者養成システム改革加速』プログラムに関連する人事です。まず、昨年12月に黒田慶子氏が森林総研から応用植物学講座教授として、8月に松尾栄子氏がLondon School of Hygiene & Tropical Medicine の Post-doctoral Research Fellowから応用動物学講座助教に、同じく8月に藍原祥子氏がNestle Research CenterのAssociate R&D Specialistから応用生命化学講座助教に、それぞれ着任いただきました。この女性教員枠は定員枠内ですが、5年の任期付き純増枠としてインセンティブ助教を採用できます。その第1号として、今年5月に李智博氏が理化学研究所協力研究員から応用動物学講座特命助教として採用になりました。女性教員は今年度と来年度にさらに1名ずつ採用の予定であり、これに関連して、4名のインセンティブ助教がそれぞれ採用になる予定で、教員の顔ぶれも大きく変わろうとしております。さらに、それ以外の人事としましては、昨年11月に松岡大介氏がポスドクから研究環環境遺伝子重点研究チーム専任助教として、今年9月に久世雅樹氏が名古屋大学物質科学国際研究センター助教から応用生命化学講座准教授として、着任いただきました。一方、昇任人事は2件ございました。まず、3月には附属食資源教育研究センターの保坂先生の後任に大山憲二氏が准教授から教授に、5月には生産環境工学講座の庄司浩一氏が講師から准教授に、それぞれ昇任いたしました。

また、昨年度から今年度、来年度にかけて、5名の若手教員が学長裁量経費やJSPS長期派遣により長期海外留学を経験しておられます。伊藤博通准教授、笹崎晋史講師、井原一高助教、中塚雅也助教、石川亮助教です。各先生方の今後ますますのご活躍をお願いする次第です。

続いて教育関係のニュースです。農学部では、これまでにも積極的に国際連携教育を推進してきました。現在実施中の「食料危機に備え資源保全をEUに学びアジアに活かす国際農業戦略の実践的トレーニング」であるITP(International Training Program)事業（H19-24）では、今年度は3名の若手研究者をEUおよびアジアに派遣しました。また、8月1～3日には宅見先生らによるサマーサイエンスキャンプが実施されました。この科学技術振興機構JSTによるプログラムには全国から50名の高校生が参加して、最新の「植物を用いた新たな環境浄化法」を実体験してもらいましたが、高校生のキラキラした眼が大変印象的でした。実体験してもらいました。

続いて研究関連ニュースです。まず、9月1～2日に農学研究科附属食の安全・安心科学センターと東京大学食の安全研究センターの共催フォーラム「食の機能性・安全性、そして安心を科学する」が神戸市で開催されました。今後も継続したフォーラムの開催や共同研究が大いに期待されます。また注目すべき研究成果としては、附属食資源教育研究センターの山崎将紀助教らが、古代人が栽培イネを背の低さで選抜していたことを遺伝子レベルで解明したことを米国学会誌ProNASに発表し、多くの新聞で取り上げられました。一方，研究プロジェクトに関しましては，神戸大学フラッグシッププロジェクトであるJST「バイオプロダクション次世代農工連携拠点」プロジェクトには、農学研究科からは4グループ12名の教員が参加していますが、今年度の中間評価再チャレンジで継続が認められるであろうと思います。さらに、同じくJST地球規模課題対応国際科学技術協力事業として、杉本幸裕先生が中心となって実施しております「根寄生雑草克服によるスーダン乾燥地農業開発」プロジェクトや、若手中堅研究者の「インターゲノミクス」研究会も、順調に研究を継続しています。その他の国際関連研究ニュースは中村副学長の記事をご覧ください。

最後になりましたが、来年は神戸大学創立110周年の記念の年になります。神戸大学基金へのご寄付を含め、今後とも神戸大学および農学部へのご支援をよろしくお願いいたします。六篠会の今後益々のご発展と、六篠会会員の皆様のご健勝とご発展を心から祈念いたします。

神戸大学の近況報告 11



理事・副学長 中村　千春

光陰矢の如しで、今年も六篠会報への記事を書く時がもうやって参りました。六篠会会員の皆様のご清祥を祈りつつ、特に国際に関連した神戸大学の近況を報告致します。

本年3月3日より7日まで、EU本部のあるブリュッセルで「神戸大学ブリュッセルオフィス・オープニング記念シンポジウム－日欧教育研究連携の新時代」を開催しました。国際化の流れで、世界中で教育研究のあり方が大きく変わりつつあります。特に、ヨーロッパでは国際的な枠組による教育研究の制度作りが真剣に模索されています。EUは今「ギリシャ財政危機」で統合の試練を迎えていますが、大学教育を含めてEUの歴史的な取組から日本が学ぶことは多くあると思います。実際、日本でも、国際的な教育連携をバイからマルチへ進化させようという動きが始まっており、神戸大学もその方向を目指しています。バン・ロンプイEU大統領を迎えた3月のシンポジウムでは、このような新しい動きを踏まえ、高等教育機関の国際連携のあり方を議論しました。

9月19日には、第2回シンポジウム「巨大災害に強い安全社会の構築に向けて」を開催しました。3月11日に発生した東日本大震災、津波、原子力発電所事故など、それが超広域的で複合的な巨大災害であったことを、ヨーロッパの研究者に正確に伝えることを目的としたシンポジウムでした。20日には、神戸大学とブリュッセル自由大学をビデオ会議システムでつなぎ、両大学の学生による「震災ボランティア活動」について、紹介と意見交換がありました。

次は、中国関連のニュースです。今年は、孫文が指導した辛亥革命100周年に当たります。7月2日には、浙江大学の研究者を交えて、「辛亥革命の思想的価値－近代化と留学交流の意義」と題したシンポジウムが滝川記念館でありました。神戸は孫文ゆかりの地です。なお、9月2日には、北京外国語大学で、「現代日本サブカルチャーをめぐる現代中国との対話」と題したシンポジウムをもちました。子供時代に夢中だったマンガはともかく、アニメ、コスプレなど無関心でしたが、神戸大学、中国側の研究者の熱い話しを聞いて「なるほど」と少し考えを改めました。マンガ・アニメの源流は世界中にあるようですが、「鳥獣戯画」を生んだ日本はまぎれもなくそのひとつです。

次は南米です。パラグアイの首都アスンシオンにある私立大学UniNorteを訪問し、10月20日に学術協定を結んできました。パラグアイは、ブラジル、チリ、アルゼンチンなどと並んで日系人の多い国です。神戸大学はリオデジャネイロ州立大学（これも訪問）と既に協定を結んでいますが、発展途上にあるユニークな大学と交流を結ぶ意義を確信して、片道35時間をかけて行って参りました。協定を結ぶまで1年余りの時間がかかりましたが、神戸大学への期待の大きさに驚きました。UniNorteに農学部はありませんが、「食と環境」に関心を示されました。そこで聞いた話しをひとつ紹介します。パラグアイはダイズの輸出国で、日本へも多くを輸出しているようです。東日本大震災に当たり、パラグアイは「豆腐100万丁プロジェクト」を国民に呼びかけて、それに見合うダイズを被災地に送ってくれました。地球の裏側にある国からのありがたい心遣いに心を動かされました。

農学関連では、10月31日から11月2日まで、神戸大学、西オーストラリア大学、浙江大学合同の「第4回健康科学技術フォーラム」が六甲ホール他で開催されました。農学部は「食と健康」領域で、当初からこのフォーラムに参画しています。健康と少子高齢化は各国共通の課題です。病気にならない健康な体作りや、病気になってもその進行を極力押さえるためには「食」が大切です。「食の科学」を通じて、農学部が人々の健康促進に大きく貢献することを期待します。

11月24、25日には、第2回神戸大学グローバルリンク・フォーラムを韓国の漢陽大学で開催します。神戸大学フォーラムの特徴は、学術シンポジウム、学長講演、留学説明会と海外同窓会を同時開催することです。初日に留学説明会と2つのシンポジウムがあり、2日目は学長、駐韓日本公使他の講演と韓国同窓会です。神戸大学を卒業された海外の同窓生が、神戸大学に熱い目を向けています。息の長い交流を願っています。

国際産学連携関連シンポジウムの話題もあります。12月5、6日に香港で香港大学と産業界が共催する「知識移転会議」があり参加してきます。神戸大学は、昨年、香港科技大学、香港中文大学と産学連携分野で協定を結びました。「水」、「植物」などの分野で連携協力関係を模索中です。

グッドニュースをひとつご紹介します。文部科学省の「大学の国際展開力強化事業」では、神戸大学からの3つの申請が全てヒアリング対象となり、そのうちのひとつが、「キャンパス・アジア中核拠点形成事業」で採択に至りました。全事業を通じて申請件数183件のうち採択は25件という激戦でした。採択に至った事業は、国際協力研究科が中心となった「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家育成プログラム」です。今後は、具体的な成果を目指して、学内はもちろん協力校である復旦大学、高麗大学とともに、モデルとなるような国際連携教育プログラムとなることを期待しています。

もうひとつ、お許しください。去る10月23日に、福田学長と東北大学井上総長の間で包括協定が結ばれました。阪神淡路大震災と東日本大震災を経験した両大学が「災害科学分野」での協力を約束するものです。神戸大学は、6月9日に、「東日本大震災からの復興に向けた神戸大学からの提言」を東日本震災復興構想会議の五百旗部真議長（神戸大学名誉教授）に提出しました。8月5日には五百旗部議長、井上総長を招いた公開シンポジウムを開催しました。実は、井上総長は、神戸大学から東北大学への支援物資と人員派遣に謝するために、震災直後に神戸大学へ来られて福田学長と会談されましたが、その際に、両学長間で協力関係構築が約束された次第です。「提言」には内田研究科長がとりまとめた農学部発の提言が載っています。大学ホームページを是非ご覧ください。

いろいろと書き連ねましたが、六篠会のますますの発展と六篠会会員の皆様のご健勝とご安寧を心より祈り申し上げ、加えて神戸大学と農学部・農学研究科への変わらぬご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

学友会だより
事務局

◎平成23年度からの学友会相談役･幹事並びに常任幹事が決定しました。

平成23年2月23日（水）午後5時30分から、理学研究科Z棟2階の201号室において、平成22年度第3回学友会幹事会が開催され、各同窓会等から推薦のあった平成23年度から2年間の学友会相談役･幹事並びに常任幹事について報告があり、推薦どおり承認されました。
詳細につきましては、学友会ホームページをご覧ください。

◎平成23年度からの学友会役員が決定しました。

平成23年3月23日（水）午後6時から、本部棟6階の大会議室において、学友会新旧合同幹事会が開催され、平成23年度から2年間の学友会会長･副会長並びに監査の役員が投票により選出されました。
詳細につきましては、学友会ホームページをご覧ください。

◎平成23年度　第1回学友会幹事会を開催しました。

平成23年6月15日（水）午後5時30分から、本部棟6階の大会議室において開催されました。
協議題として、
①平成23年度事業計画（案）
②平成23年度収支予算（案）について協議が行われ、原案どおり承認されました。
また、大学側からは、
①東日本大震災に係る神戸大学の支援活動等
②第6回ホームカミングデイへの協力要請
③平成22年度学位記授与式及び平成23年度入学試験状況等
④神戸大学統合研究拠点設置記念･システム情報学研究科1周年記念合同シンポジウムの実施
並びに、
⑤神戸大学基金の現状と協力依頼などについての報告がありました。

◎学友会支部として「神戸大学ニューヨーク同窓会」及び「京滋支部」が登録されました。

平成23年3月現在の学友会支部は、国内9カ所（東京、大阪、神戸、北海道、福井、岡山、鳥取、島根、愛媛）、国外2カ所（デトロイト、マニラ）の11カ所が組織され、それぞれ活発に活動されています。

平成23年3月以降、新たに「神戸大学ニューヨーク同窓会」及び「京滋支部」が登録され13カ所になりました。所在地等につきましては、学友会のホームページをご覧ください。また、支部登録についてお考えの場合は、学友会事務局までお問い合わせください。

学友会事務局　TEL078−803−5042
E-Mail:plan-gakuyukai@office.kobe-u.ac.jp
学友会のHP
http://www.kobe-u.com/alumni/index.html

■実習による神大ブランド「神戸の香」の酒造り始まる■

神戸大学ブランド純米大吟醸酒「神戸の香」は皆様にご愛顧いただいております。“大学発”の日本酒としてはすでに草分け的な存在となり、全国の大学農場生産物の販売促進につながり、かつ加西市周辺の地域おこしに貢献してきました。「神戸の香」は酒米品種「杜氏の夢」（兵庫県農林水産技術総合センター育成）を、神戸大食資源教育研究センター（附属農場）で農学部学生が農場実習で栽培し、酒造りは富久錦株式会社で行われてきました。今年は酒造実習として農学部の学生も加わることになりました。彼らは主に応用生命化学コースに所属しております。



卒業生の皆様！
おいしいお酒「神戸の香」を是非ご賞味ください。

<お問い合わせ・ご注文>

●神大LLCのホームページ（神戸の香）
Email: shop@kobe-u-llc.co.jp
TEL/FAX: 078-881-6826

●富久錦株式会社　「ふく蔵」
Email: k-inaoka@299.jp
電話　0790-48-2111
兵庫県加西市三口町1048番地
http://www.299.jp/accessmap.html

値段は1本3000円（税込、送料別）です。
5本以上のご注文いただきますと追加サービスをいたします。

同窓生は今…



兵庫県農政環境部
農林水産局長 三浦　恒夫
（神9A回）

園芸農学科を昭和53年3月に卒業した三浦恒夫です。六篠会の皆さん、そして、共に学生時代を過ごした親愛なる仲間たち、お元気ですか?このたび会報への執筆依頼が舞い込んできましたので、あの頃の思い出や近況を報告させていただきます。

私は、卒業してほんの少しだけ民間企業に籍を置いた後、恩師である松林元一先生の作物育種学研究室で研究生としてお世話になり、昭和55年4月から兵庫県に勤務し、今年で32年目になります。3年前から県六篠会（六篠会兵庫県庁支部）の会長を務めることになり、六篠会本部の役員の方々や農学部の先生方とお会いする機会をいただき、とてもうれしく思っております。先日のホームカミングデイには、県六篠会設立30周年記念行事としてシンポジウム等に参加させていただき、六篠会本部並びに農学部の皆さんと合同でとても楽しい懇親会を催すことができました。改めましてご参集いただきました皆様、そして万全の準備にご尽力いただきました事務局の皆様に心から感謝申し上げます。

さて、56歳になった今、いたずらな天使が私の前に現れて、1年間だけ過去の好きな期間をもう一度経験させてくれると言ったなら、即座に「1976年の大学3年生のとき」とお願いするでしょう。あの頃街に流れていた歌は、前年のレコード大賞曲「シクラメンのかほり」、そして知る人ぞ知る名曲「どうぞこのまま」や「あの日にかえりたい」など。当時は3年生の後期に専攻する研究室が決まりましたので、いよいよ「大学生としての本番を迎えるんだ」という最も充実した時期だったと思います。それに何といっても、時間がゆっくり流れていました。私は酒も飲めず、麻雀もできませんでしたので、持て余すほどの時間がありました。今にして思えば随分もったいない過ごし方をしたと反省する一方で、あれこそが学生時代なんだと懐かしく思い出します。今と違って大学の敷地内に建物が少なく、農理文3学部のロータリーの北東付近は、大学本部の高台まで空き地が広がり、格好の運動場となっていました。時間を見つけては、みんなで集まりソフトボールに興じたものです。特大の場外ホームランを連発したM氏、ソフトボールよりもテニスが専門でこの頃よくサンテレビの園芸番組で顔を見かけるY氏、プロ顔負けの落語を披露していたS氏、ピッチャーをしていたのは確か福岡で保育園の園長をしているN氏、皆さんお元気ですか?

思い出話はこれぐらいに、近況として、昨年1年間勤務した「淡路島」とそこでの私の仕事ぶりを紹介させていただきます。

来年の2012年は、太安万侶が元明天皇に「古事記」を献上してから1300年目に当たります。その冒頭の国生み神話で、伊邪那岐、伊邪那美の二神が生み出した大八島（日本列島）の島々の中で最初に生まれた島と伝えられるのが「淡路島」です。また、朝廷へ海山の産物を納め、小井の清水を天皇が用いる飲料水とされた淡路島は、万葉集に若狭、志摩とともに御食つ国（みけつくに）と詠われており、古の時代から食料供給基地としての役割を担ってきました。時を隔てた現在、我が国の供給熱量ベースの食料自給率が40%（兵庫県は16%）であるのに対し淡路島は110%で、さらに生産額ベースでは実に300%を超えると試算されており、農業、畜産業、水産業すべてにおいて全国有数の生産拠点となっています。中でも、柔らかくて甘い淡路島たまねぎやふんわりと美味しいレタスに代表される野菜は、全国の市場で高い評価を得ています。こうした消費者、実需者の期待に応え得る生産であり続けるとともに、「淡路島」の積極的なPRと販路拡大に取り組もうと、生産、加工、流通、観光関係の団体、行政機関が一体となって「食極めれば淡路島」をスローガンに、食のブランド「淡路島」推進戦略の展開に取り組みました。この一環として、特に淡路島の野菜生産の現状を分析し、今後の可能性について検討するため、神戸大学の小野雅之先生に会長をお願いして「淡路野菜生産力強化研究会」を設置し、野菜生産を実践する方々を委員に、内容のある熱心な議論を重ねていただきました。言うまでもなく農業を取り巻く経済環境がことのほか厳しいにも関わらず、この研究会では、淡路島での農業・野菜づくりの魅力を熱く語り、農業者であることに誇りを持ち胸を張る多くの委員の姿があり、深く感銘いたしました。

この感動を、広く県内の農業者の皆さん、これから農業を志す皆さんにお伝えしようと決心し、本庁に転勤となった現在でも、“ゴーゴー淡路島!”なるプロジェクトを立ち上げ、淡路島のPRを続けています。

まったくまとまりのない文章になってしまいましたが、今回執筆をご依頼いただいたお陰で、忘れていた学生時代のたくさんの思い出を呼び起こすことができました。心からの感謝を込めて筆を置くことにいたします。

小野薬品工業株式会社
取締役常務執行役員 研究本部長
川畔（かわばた）　和一十（かずひと）
1985年農学研究科（植物防疫学）修士修了



1985年(昭和60年)に農学研究科を卒業しました。卒業してからもう26年になるのか、というのが寄稿に当たっての率直な感慨です。当時私が所属していた防疫遺伝学教室は、温厚で研究一筋の小野一教授、福の神のような容貌で実際その通りであった助教授、永吉照人先生、カナダから帰国した新進気鋭の助手、中村千春先生(現中村副学長)と、優れた研究指導者に恵まれていました。にもかかわらず、研究面では先生方の期待に十分こたえられなかった自分が思い出されます、研究もさることながら、当時の植物防疫学科では、(深夜実験で?)夜な夜な教室に集まり、麦や米のしぼり汁を痛飲しては人生を語る、懐の深い先輩院生が何人もおられました(実名は挙げませんが、彼らは色々な場所で大変活躍されています。)。思い返してみれば、科学以前の多くのことを議論し共有しあった。その年代特有の特殊な環境からHow to be?の大切さを学び、それが後年いろんな意味で役に立ったと感じています。

学科内の多くの同級生が公務員として研究生活を選択した中、私は小野薬品工業株式会社という当時私自身が名前も知らなかった製薬会社に入社しました。企業で「研究をしたい」という気持ちは人一倍強かったものの、採用を決定してくれた会社はわずかであり、その中に当社が含まれていたというのが正直なところです。ただ、採用を決定してくれた当時の研究本部長が大変魅力的で、概略、「君に…くすりの知識が無いことなどどうでもいい。当社には社是・社戒・社訓など一切ないので…やんちゃに頑張ってくれ。縁があれば一緒に働こう。」…というような話であったと記憶しています。「縁があれば」、というのは断り文句とも思いましたが、「ここなら私でも何かできるかもしれない」と信じたのも事実で、現在に至っています。

当社の創業は、いまから290年余り前に遡る1717年と、現存する製薬会社の中では最も古い会社のひとつです。現在に到る小野薬品工業株式会社として設立されたのは1947年のことで、プロスタグランジンと総称される非常に強い薬理活性をもつ薬剤の上市をきっかけに、いわゆる新薬メーカーに発展するに至りました。長い目で見れば、そのどれもが極めて有意義であったのですが、入社後は、納得、不納得、失意、意外、…等の修飾語がつく様々な異動も経験してきました。1992年より2年間、イギリスに研究留学し、2001年には京都大学で学位を取得、これらを挟んで、幸いにもいくつかの薬の発見から上市までに携わり、創薬研究所、国際部、開発本部、事業戦略本部などを経て、2008年より現職にあります。

現在、「病気と苦痛に対する人間の戦いのために」という研究理念のもと、患者さんに真に役立つ独創的な新薬を継続的に創製する事で、世界に優れた医薬を提供できる国際製薬企業に成長することを目指し、その推進役を務めています。当社は世界の最先端のさまざまな研究者の頭脳を借りながら、種々の革新的医薬品を上市するに到りました。今風に表現するならば、オープンイノベーションや産−学連携ということになりますが、こういったコラボレーションを積極的に活用しながら企業として成長を達成してきました。そのような背景もあり、現在当社の研究本部は、重点研究領域を三つに絞り、かつ、国内外の研究者の優れた頭脳や技術を提携や共同研究で活用しながら、日本発で「患者さんに役に立つ薬」を世界に提供してゆきたいと強く願っています。現在、神戸大学が重点的に取り組んでいる産学連携事業については多いに期待するところであり、奇しくもその中心におられるのが、当時混迷の中にあった私達(“深夜実験”仲間の当時の院生達)の良き兄貴であった中村千春副学長であることに深い縁を感じます。

製薬会社にとっての研究成果とは、上市した医薬品によって、「患者さんやそのご家族に本当に喜んでいただけているか」ということにかかっています。しかし、研究者のレベルでは、そのような評価が得られるところまで到達することは極めて少なく、また、到達したとしても10年を超える歳月を経ないと評価が明らかになりません。これがこの業界の研究員の大きなジレンマですが、決して自己満足に陥ることなく、研究のための研究を可能な限り排除し、単なる研究成果ではなく、医薬品そのものを介して社会に貢献する事こそが製薬会社研究員の真の使命である、と自戒しつつ毎日を送っています。私にとってそうであったように、神戸大学の卒業生諸氏が、在学中に得た計り知れない無形の財産を糧に、各界で遺憾なく活躍されることを祈る次第です。

ホームカミングデイ

第6回　神戸大学ホームカミングデイの開催

担当理事　山本　博昭（兵A12回）

第6回神戸大学ホームカミングデイが平成23年10月29日(土)に開催されました。

午前中には、例年通り10時半から全学規模の記念式典がNHKアナウンサー住田功一氏(S58年経営学部卒)の総合司会により出光佐三記念六甲台講堂(登録有形文化財)にて開催されました。福田秀樹学長は冒頭の挨拶で、東日本大震災の被災者にお見舞いを申し上げると共に、被災地への支援や復興を願う活動・提言・シンポジウム等を紹介、「オール神戸大学の底力を実感した」と述べられました。また各同窓会の全学組織である学友会会長高崎正弘氏が挨拶、母校を核とした「きずな」の大切さを強調されました。

次に、野村ホールディングス執行役財務統括責任者の中川順子氏(S63年文学部卒)が「私の原点、神戸」と題して講演されました。「高校生の時母の呟きをきっかけに神戸を訪れ一目惚れし神戸大学を受験、今日に至るまで私の原点は未だ神戸(大学)にある」とユーモアを交えて思い出と生き様を語られました。最後に神戸大学クラシックギター部による4曲の演奏があり、田中康秀副学長の挨拶で式典は閉じました。

12時頃からはアカデミア館1階食堂でティーパーティーが開かれ、多数の参加者が懇親を深めました。なお、今回も留学生ホームカミングデイが同時開催され、午後から神戸大学百年記念館で多数の各国留学生(卒業生)が参加しました。

午後には、各学部企画が開催され、以下に農学部企画についてのみ概要を報告します。

1時半から内田一徳農学部長、北浦義久六篠会会長の挨拶と、今回からの初企画である六篠賞授与式が行われました。六篠若手賞として本多健氏(応用動物学講座)と西谷洋輔氏(応用生命化学講座)の2名(本田氏は欠席)、六篠業績賞として鈴木康生氏(応用植物学講座)に北浦会長から賞状と副賞が手渡されました。その後鈴木氏による受賞講演「青果物の貯蔵性に及ぼすエタノール蒸気処理の効果に関する生理・生化学的研究」がありました。

続いてOBによる講演2題、藤田茂之氏(兵庫県農政環境部農政企画局・H7年農学研究科修士課程修了)の「魅力ある兵庫県農業の中で働くということ」と西端豊英氏(松谷化学工業株式会社・H8年自然科学研究科博士後期課程修了)の「原材料メーカーはおもしろい～こんなところにも松谷化学が～」がありました。いずれも学生の就職等将来への指針を考慮した講演内容に配慮されたように思われますが、現役学生の参加が少なく残念でした。





今回のホームミングデイは、学部側の配慮及び同窓会側の協力により、学部企画に先立てて「農学部退職教官懇談会」と兵庫県職員(農学部卒業生)で組織された「県六篠会総会」が同日学部内で開かれました。そのため、120名を超える参加者があり、午後5時頃から行われた懇親会は会場が満杯になりました。中村千春理事(副学長)、北浦会長、三浦恒夫県六篠会長の挨拶の後、賑やかな歓談の中で終了しました。

「振り返れば六甲の山並み～あの頃の友に会いたい」をキャッチフレーズに開始された神戸大学ホームカミングデイは、今回で6回目を迎えました。予算の都合で一部の方しか案内が届きませんが、個人、団体を問わず卒業生であれば何方でも参加できます。大学、学部ホームページ等で検索の上、今後も六篠会各位が多数参加されることを期待します。





六篠会代議員総会報告

同窓会の交流と大学の発展を目指して

代表理事　中村　直彦（神1回）

平成23年5月29日(土)、午後4時から神戸・元町のKUC事務局のある本館牡丹園において、六篠会の「代議員総会」を開催し、六篠会の事業活動及び予算・決算などについて審議し、それぞれについて承認を得ましたので報告いたします。

1）第1号議案　平成22年度六篠会事業報告並びに収支決算について
2）第2号議案　平成23年度六篠会事業計画(案)並びに収支予算(案)について
3）第3号議案　六篠会役員の選任について
4）その他
　①農学部創立60周年記念事業の報告について
　②神戸大学第6回ホームカミングデイについて

はじめに、北浦会長(兵・A・6回)から、六篠会代議員及び役員に対して活動協力へのお礼を述べるとともに、農学部創立60周年を記念して創設した「六篠賞」を実施に移していることを報告しあいさついたしました。

その後、議長の選出については、立候補者がいなかったため、代議員の坂井永利氏(兵・A・12回)を議長に推薦し、同意が得られたため任命し議事に入りました。



代議員総会の様子

平成22年度事業実績

まず、第1号議案の平成22年度事業実績については、

①六篠会代議員総会をはじめ理事会の開催
②入学者(学部・修士・博士、計176名)の同窓会入会勧誘・記念品の贈呈
③六篠賞をはじめ教官・学生の学術活動に対する援助
④六甲祭・六甲山マラソン大会など学生活動に対する援助
⑤卒業者(卒業生181名・修了生134名)の卒業記念パーティ等に対する援助
⑥農学部の環境美化等に対する援助
⑦会報の発行
⑧同窓会の支部活動に対する援助(関東支部・東海支部・KOBE市役所支部・兵庫県庁支部・広島支部)
⑨学友会など他学部の同窓会との交流などの活動を実施しました。

また、収支決算については、前記事業実施に要する経費として予算執行いたしました。また収入の部は、新規会員が176名とほぼ予定どおりの入会金を確保できたこと、さらに支出の部にあっても、名簿管理にかかる業者を変更することによって大幅に名簿管理経費を圧縮するなど運営経費の節減を図ったことにより、一般会計に相当額の剰余金を生み出すことができ、それを基金会計に繰り入れることができました。

その結果については、5月13日に監事である辻荘一氏(兵・Z・12回)と外山眞理さん(神・C・8回)の2名に監査していただき、代議員総会当日には、代表して、外山さんから「適正に執行されている。」旨の報告が受けました。

平成23年度事業計画等

次いで、第2号議案の平成23年度事業計画(案)及び収支予算(案)については、経済が低迷する中において、事業内容は例年どおりの計画を実施することになりました。

六篠会役員の選任

そして、第3号議案の六篠会役員の選任については、任期2年の途中ですが、兵庫県庁での役員交代により、相野さんの後任に松山稔（神・P・14回）さんを六篠会理事に選任しました。

その他の事項

農学部創立60周年記念事業がすべて完了しましたので、それにかかる収支決算を、六篠会監事の辻氏と外山氏の両名に監査をしていただきましたので、当代議員総会で報告させていただきました。

また、大学と同窓生との交流の場である「神戸大学第6回ホームカミングデイ」が、10月の第4土曜日である29日に開催されることが報告されました。大学から招待された卒業生を中心に式典が開催されますが、六篠会役員会を大学において開催して盛り上げてはどうかとの提案がありました。

なお、収支決算書及び収支予算書は、次頁に掲載しております。

創立60周年記念事業の決算報告

創立60周年記念事業会

総括委員長　中村　直彦（代表理事・神1回）
会　　計　竹中　慎治（神戸大学大学院農学研究科）

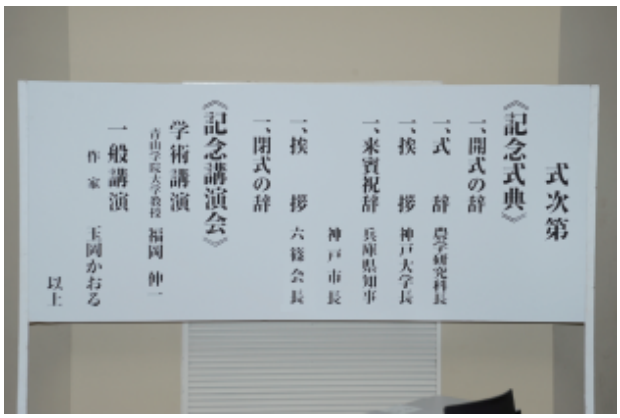
早いもので、もう一昨年になります。平成21年10月31日(土)、農学部学舎において「神戸大学農学部創立60周年」を迎える記念式典を開催いたしました。

これだけ多くの参加者が結集したことに、農学部の魅力と同窓生のパワーを改めて感じました。

事業は、

①記念行事の開催（記念式典、記念講演会、記念祝賀会）
②記念誌・写真集「神戸大学農学部60年のあゆみ」の発行
③募金活動

といった3部作で、全てについて成功裏に終了することができましたのは、賛同をいただいた学内外の皆様のお陰であり深く感謝申しあげます。







ここに、全ての決算が終了しましたので、ご報告いたします。

なお、「創立60周年記念事業特別会計収支報告書」は、別表のとおりですが、わずかの剰余金が発生しましたので、186,464円を東日本大震災の義援金(別途、振込手数料290円)として神戸新聞社を経由して送らせていただきました。(下記、新聞記事のとおり)

また、創立60周年を記念して作りました「60年のあゆみ」の図書(送料込み3,000円)及びこの図書のデジタル版と記念式典等の映像とともに収録したCD（送料込み2,000円）を実費でお分けいたしますので、ご希望の方は事務局までお問い合わせください。





2011年6月2日（木）神戸新聞朝刊に掲載

■創立60周年記念事業特別会計収支報告書

収　　入		金額(円)
醵金	個人　573名　7,992,220円 特別会員 126名(旧・現教職員)　一般会員 父兄57名含む 企業団体　19社　1,250,000円	9,242,220
記念祝賀会参加費 卒業生 133名　旧教員 22名　現教職員 38名　家族 9名　計 202名		1,194,000
普通預金利子		1,376
収 入 総 合 計		10,437,596

支　　出	金額(円)
記念特別講演	809,786
記念式典・記念行事関係（看板・会場設営等）	1,296,941
祝賀会関係（料理、アルコール類）	1,214,393
イベント（グリークラブ、デカンショ保存会）	200,000
司会者	74,340
農学部創立60周年記念　記念誌・写真集発刊	2,769,060
記念誌・写真集・記念CD郵送費	264,974
事務費（趣意書・案内状・招待状の作成・郵送、プログラム・パンフレット等資料の製作ほか）	1,240,648
記念CD作成費（デジタルデータ変換代含む）	1,890,840
人件費（委員報償費・学生アルバイト）	414,820
会議費	75,040
東日本大震災義援金[神戸新聞社経由]（内振込手数料290円）	186,754
支 出 総 合 計	10,437,596

KŌBE六篠会

丸山　公也（植物資源学科）

KŌBE六篠会は、兵庫農科大学、兵庫県立農業短期大学及び神戸大学農学部を卒業し、神戸市に勤務する者を会員として、昭和59年に結成されました。現在会は、会員134名(現職会員75名、OB会員53名、名誉会員6名)を数えています。

役職名	氏　名	卒業・回生	所　属（勤務先）
会　長	橋本　宏之	51年・神Ｚ７回	保健福祉局 北衛生監視事務所
副会長	渋谷　一郎	52年・神Ｃ８回	保健福祉局 環境保健研究所
〃	森川　功一	55年・神Ｃ11回	市民参画推進局 生活情報センター
〃	鈴木　壽也	59年・神Ｐ15回	産業振興局 中央卸売市場本場
幹　事	八木　正博	56年・神Ｃ12回	保健福祉局 環境保健研究所
〃	長澤　秀起	57年・神Ａ13回	産業振興局 農水産課
〃	藤井　俊宏	58年・神Ｃ14回	保健福祉局 西部衛生監視事務所
〃	安原　　潤	59年・神Ａ15回	産業振興局 中央卸売市場東部市場
〃	向井　茂樹	２年・神Ａ21回	産業振興局 農水産課
〃	景山　敏一	２年・神Ｔ21回	みなと総局 臨海整備事務所
〃	長浜　慶治	２年・神Ｔ21回	神戸市都市整備公社 都市整備課
〃	岡野　光世	３年・神Ａ22回	産業振興局 農業振興センター
〃	為国　　司	５年・神Ｃ23回	環境局 環境政策課
〃	角村　朝葉	９年・神Ａ28回	農業委員会 事務局
〃	大窪　道明	14年・修　29回	産業振興局 農水産課
監　事	高谷　信之	52年・神Ａ８回	産業振興局 農業振興センター
〃	平井　　朗	52年・神Ｃ８回	保健福祉局 東部衛生監視事務所
〃	松宮　道生	60年・神Ａ16回	神戸市公園緑化協会 公園緑地課

会員の採用区分は教職、農業、化学、衛生監視(農芸化学、畜産)から一般行政まで幅広く、また勤務先も小･中学校(教員)、環境局(廃棄物や環境保全に関わる仕事)、保健所や区役所(食品衛生・環境衛生・動物衛生に関わる仕事)、産業振興局(農・水産・畜産業の農政振興に関わる仕事)、建設局(道路、下水道、公園などの土木関係の仕事)、水道局(水質検査などの仕事)のほか、フルーツフラワーパークや六甲山牧場、海釣り公園・・・などなど多岐にわたっており、安全で安心なまち「こうべ」の実現に向けて、それぞれの職場・立場で会員一丸となって取り組んでいます。

私は平成21年に農業職で採用され、現在まで農業振興センターに勤務しています。農業振興センターでは畜産について生産振興事業と地域振興事業を実施しており、私は生産振興事業のなかでも家畜共済という事業を担当しています。家畜共済は家畜が病気に罹ったり、死亡するなど被害を受けた場合に共済金を支払う、いわゆる家畜に対する保険事業です。神戸市では家畜の中で牛を家畜共済の対象としております。いざというときに農家の方を支援することで農業生産・農業経営の安定化をはかっています。

最近の農政のキーワードは地産地消です。神戸市では様々な特徴のある農作物が生産され、直売所などで販売されています。皆様も見かけられましたらお試しいただけたらと思います。



なお、本会の活動は、年1回の総会・懇親会の開催と名簿の発行が中心となっています。総会・懇親会では、農学部長や六篠会会長等のご出席をいただき、大学の近況を伺ったり、思い出話に花を咲かせたり、会員間の情報交換を進めたりと親睦を深める良い機会となっています。

今後とも、「同窓生意識」をより一層高めていく努力を続けていきたいと考えています。

県六篠会からの報告

辻内　郁夫（神A10回）

今年度、県六篠会は、設立30周年を迎えることとなりました。これを記念して、10月29日に神戸大学農学部において、平成23年度総会を開催しますとともに、農学部主催のホームカミングデイとの合同での懇親会を開催いたしました。

総会は、56名の出席者のもと、三浦恒夫会長の主催者挨拶の後、六篠会北浦義久会長から来賓挨拶を賜り、全議案の協議・承認を経て盛会裡のうちに終えることができました。その後、ホームカミングデイ催しに総会出席者が参加をさせていただき、六篠会賞授与式並びに受賞者による記念講演、そして、情勢報告に臨ませていただきました。情勢報告では、我々の会を代表して、農政環境部農業経営課藤田茂之氏が「兵庫県の農業と農業政策」について講演を、分かりやすく丁寧に、かつ、熱き思いで行ってもらいました。

合同懇親会では、お世話になった先生方を囲み、全国からこの日のために来ていただいた同窓生が集い、お互い現況報告とともに懐かしい話に花を咲かせつつ、楽しく心温まる時を過ごすことができました。30周年を迎える県六篠会にとって、この日1日は、未来に向けた新たな出発となる良き記念日となったと深く感じたところです。

これまで県六篠会を支えてくださいました母校並びに六篠会の皆様方に改めて感謝を申し上げますとともに、総勢216名(うち現役県職員132名)の会員が、お互いの結び付きを更に高めることを通して一体となった中で、母校そして六篠会の隆盛に寄与できることを期し、支部からのご報告とさせていただきます。



関東支部(神戸大学木曜会)

関東支部長　岸谷　靖雄（兵A10回）

今年の六篠会関東支部総会は10月7日神戸大学東京六甲クラブで北浦会長のご出席を頂き開催した。支部長挨拶に続いて北浦会長よりご挨拶と本部に於けるホームカミングデイなど一般事業、又六篠賞など学術振興事業援助などのお話しを頂いた。今年の講演は「モチ小麦」について公立大学法人青森県立保健大学教授藤田　修三氏(神Z6回)にお願いした。もち米しか知らなかったものにとって、「モチ小麦」のお話しは、非常に興味深いお話しであった。今後どのように発展していくか期待される。例年と同じく講演の後は、懇親会を開催、和気藹々のうちに再会を約し21時閉会した。全学部を対象に毎月開催される木曜会は、今年六篠会担当月は無い。来年3月22日が担当である。これから全学部の方々が興味を持つような講演題目を検討する。六篠会会員の皆さんも是非ご出席頂きたい。

東京六甲クラブは一般社団法人神戸大学東京六甲クラブとして認められ、各学部の努力により会員も増え、軌道に乗ってきた。しかし会員数1500名の目標には未だ遠い。昨年まで六篠会は会員3名だったが、20数名に増加した。目標は100名なのでまだまだであるが、これからも地道な努力を重ねて行く必要がある。現在加納健三氏(兵C16回)が名簿委員に、又岸谷が会員増強委員になり、毎月一回の打ち合わせや、色々の会合に出席し、会員勧誘を行っている。

特記事項として、11月29日山中伸弥教授をお招きして、「iPS細胞研究の進展」という演題で講演を頂くことになった。どんなお話しが聞けるか楽しみである。既に200名近い出席希望者があると聞いている。

今後の課題として若い卒業生の総会、木曜会への参加を呼びかけていきたい。今後とも六篠会本部をはじめ皆様方の関東支部へのご協力とご指導をお願い致します。



東海支部(役員紹介)

東海支部長　長谷川　信弘（兵C16回）

本年度は、六篠会本部のご協力を得て、東海3県の会員の名簿を入手する事ができました。
現在では総勢220名となっています。しかし、支部総会に参加して頂けるのは、ごくわずかです。参加された皆様方のご協力を得て、支部総会を盛り上げたいと考えています。

10月10日には今回で11回の支部総会となり、年数を重ねる毎に、高齢化で体調を崩して参加出来ない会員も多くなりましたが、新規名簿からの会員の参加もあり、嬉しく思っています。東海支部が結成されて10年も経ちますが、本年には兵4Z(S31年卒)の川越幸雄さん、兵17Z(S44年卒)の姜岩童さんが逝去されました。姜さんは、昨年の支部総会にも出席されていましたが、昨年の支部総会では、その様な素振りも見せず、元気に会談されていた事が印象に残ります。姜さんと川越さんのご冥福を祈ります。一方、元気な人もいます。この10月2日に、京都大学理学部で、元犬山モンキーセンター長・河合雅雄先生の姿を見る事が出来ました。

本年度の総会では、S43年卒業の兵16Z・吉村俊紀氏に「武士道から軍国主義に結びついた悲しき桜」の講演をお願いしました。吉村氏は日本ハムを定年退職後、岐阜県立国際園芸アカデミーで勉強され、分野の異なる造園で活躍されています。

さて、食品業界における、昨年度からの状況では、口蹄疫病・鳥インフルエンザは終結しましたが、放射能汚染はまだまだ続きます。放射能に対する、性格な情報・判断が求められます。ここでも、農学系を学んだ我々に、「食の安全」について真価が問われており、放射能汚染に関する講演会を計画してはと思っています。



広島支部近況

広島支部長　番匠　宏行（兵Z13）

六篠会広島県支部を2008年に設立し、少人数ながらも毎年1回総会開催を継続しています。昨年の第3回総会は9月に尾道市で北浦会長をお招きして開催し、その概況は六篠会報No25に掲載しましたので、今回はその後の近況を報告することとします。

今年2月に役員会を行い、第4回の総会の計画と役員改選について協議しました。今年は10月8日(土)に東広島市において開催される西条酒まつりに便乗して、「秋満喫西条酒まつり」と銘打って、同市内のホテルにて第4回の総会を開催しました。

当日は北浦会長に先約が入っていたため、能宗副会長にご出席頂きました。副会長からは、10月29日(土)に神戸大学で開催される「ホームカミングデイ」の行事内容や六篠会の代議員総会(5月29日)の検討内容等を紹介頂きました。通常の議事（活動報告、決算報告、監査報告、活動方針、役員改選）に加えて、役員の土屋隆生さん(元県立農業技術センター)に「広島の酒米について」と題して資料をもとに、東広島市（西条）が酒どころになったいきさつや酒米の歴史等を解説していただきました。その後懇親会に移り、今流行のご当地グルメ「美酒鍋」を囲んで、甘口、辛口、中辛等、日本酒を飲み比べて和やかに歓談した後、全員で酒まつり会場に繰り出しました。9つの酒造メーカーが酒造りの現場や酒蔵を公開し、無料の試飲コーナーがあったりして、大勢の人で賑わい、祭りを満喫しました(新聞発表、8～ 9日の2日間で25万人の人出)。次回は福山市鞆の浦で総会と鯛網見学等楽しい行事を予定しています。

広島県内にお住まいの方は入会、参加をお待ちしています。

新役員体制

副支部長：土屋(兵A17)、坂本(神C11)
事 務 局：宮(神T12)
会計監査：五味(神P17)
幹　　事：細田(兵A14)、金野(兵Z15)
　　外林(兵Z15)、松本(神A14)
　　慶徳(修14)
なお会長は留任



延喜会と神戸大学日本酒研究会

六篠会顧問　新家　龍（兵C5回）

延喜会は、前回の六篠会報でご紹介しました通り、農学部卒業生で日本酒をはじめ醗酵関係の企業で活動しているか、活動してきた人々の集まりであります。今回は、平成23年11月9日(水)午後大阪の太閤園で開催されました
第4回酒シンポジウム「関西の飲酒文化　お酒と酒屋」に私が出席し、意見を述べる機会が与えられました。その時の講演内容や酒屋さんの現状等について耳にした内容を以下に要約してみたいと思います。

シンポジウムの構成は、第1部講演と第2部表記座談会とからなっておりました。

第1部は、関西学院大学 土井教之教授(神戸大学経済学部出身、経済学博士)が「競争政策と酒販業 経済学の視点」と題して講演され、メーカーと流通業者、消費者間のイノベーションを通じて互いの利益を向上させるべきであると強調されました。

第2部の座談会では、大寺真理子神戸市会議員(芦屋大学非常勤講師)、ロバート イエリン陶芸師(銀閣寺前やきものギャラリー代表)と私が、壇上で各話題提供し、フロアーからの質問に答える様式で2時間充実した話合が行われました。出席者は、全国小売酒販組合員の皆さんで、全国から数百人が出席されておりました。

私は、小売酒販組合の皆さんへのお願いとして、「お酒」ではなくて「心」を消費者の皆さんに売って欲しいと訴えました。つまり、原料米をつくる農家の苦労、それを使ってお酒をつくる杜氏の苦労、さらにその製品を販売する流通業者の皆さんや小売業の皆さんの苦労などを伝えるコミュニケーションが殆どない現状にあると思います。それらを伝えて消費者を教育し、心を売って欲しいと訴えました。スーパー、コンビニなど量販店では、自由に商品を選べて買えるという利点はありますが、生産者、販売者及び消費者との間にはコミュニケーションが殆どなく、どのようにして造られたのか、どのような苦労があって製品が出来上がったのかなどの「心」の繋がりが殆どない現状を指摘した次第です。

この問題は、家庭内から一般社会に至るまで「絆」の必要性と重要性を訴えている人々の多い現在、商売の世界ではさらに強調したい重要なポイントではないかと思っています。このことによって、販売者と消費者との心の繋がりがよみがえり、お互いの利益向上がはかられるならばと願っている次第です。

KUCの活動について

理事　石賀　暢一（神C1回）

KUC(Kobe University Clubの略)は学友会の下部組織として神戸地区での全学同窓会員の交流をはかるべく下記、講演会、見学会、同好会(ゴルフコンペ、囲碁、英雄を語る会、旅行会)などを開催しています。
KUCは現在、**本館牡丹園(神戸市中央区元町通1丁目11-20 Tel078-334-1323)に事務局**をおいて活動をしています。

(1) 定例講演会の開催(年2回)

1回目は8月25日　神戸大学大学院海事科学研究科長　小田啓二教授に「福島原発事故と放射線被ばく」と題して講演をいただきました。

2回目は10月27日新長田眼科の山中弘光先生(医学部S43年卒)に「目の話」と題して講演をいただきました。

(2) 見学会の開催(年1回)

5月24日に神戸産業医療都市を見学
医療産業都市の概要説明、理化学研究所の発生・再生科学総合研究所での説明および計算科学研究機構の高速コンピューター「京」の見学をおこないました。

(3) KUC同好会の開催

①KUCゴルフクラブ(年4回　前年は3、6、10、12月の開催で24名～33名の参加)
②英雄を語る会(原則として奇数月の第2火曜日に開催、前年は6回)
③囲碁同好会(原則として毎月第3月曜日に「海洋会」で開催、前年は7名～28名の参加)
④旅行同好会(年1回)

(4)活動報告

神戸大学のホームページに神戸大学クラブ(KUC)の各種活動を掲載しています。

現在、六篠会の会費納入者は21名(平成23年9月末現在)と少々寂しい状況です。今後、OBの学部を超えた交流が盛んになることが母校への貢献に繋がってゆくのではと思っています。一人でも多くの方がご入会いただければ幸いです。
(ご加入は左記事務局へ)。

以上

研究室紹介

資源生命科学専攻応用植物学大講座

園芸保蔵利用学教育研究分野

教授　寺井　弘文
助教　鈴木　康生

「園芸保蔵利用学」教育研究分野の現在の構成は、寺井弘文(教授)、鈴木康生(助教)、大学院博士課程(前期課程)2名(2年生 2名)、学部生5名(4年生 3名、3年生 2名)となっています。

まず「園芸保蔵利用学」と聞いても、どのようなことを研究しているのか、ピンとこない方もいらっしゃるかと思いますので、あらためて説明したいと思います。果物、野菜、花といった園芸作物は私たち人にとって必要不可欠なものです。果物や野菜はビタミン、ミネラル、機能性成分の主要な供給源として食に欠かせないものであり、また花は人が文化的な生活を送る上で重要な役割を果たしています。園芸学は「果樹園芸学」「野菜園芸学」「花卉園芸学」「園芸利用学」の4つの分野からなります。これは、園芸学の特徴として、取り扱う作物が非常にたくさんであること、そしてそれらは収穫後傷みやすく日持ちしないことによるためです。園芸保蔵利用学教育研究分野ではこのうち「園芸利用学」に関する研究を行っています。「果樹園芸学」「野菜園芸学」「花卉園芸学」ではそれぞれ対象とする作物が読んで字のごとしですが、「園芸利用学」では、果物、野菜、花卉すべての作物が研究対象であり、これらの収穫後(postharvest)に関することが研究対象となります。本教育研究分野名は英語では「Lab of Postharvest Biology and Technology of Horticultural Products」ですが、こちらの方がわかりやすいかもしれません。すなわち、傷みやすく日持ちしない園芸作物の収穫後の損失をできるだけ少なくし、可能な限りよい品質を保つために、収穫後の園芸作物の生理を理解し、よりよい貯蔵流通技術を構築していくことが主な研究内容となります。

現在、収穫された園芸作物は一般には低温に保持することにより、品質や鮮度を維持しています。しかし、それには多大な設備投資やエネルギーを必要とし、特にエネルギーに関しては環境などを考えた場合昨今その対策が急務とされています。本研究室では、そのような中、省エネ・低コストをコンセプトとし、



できるだけ冷蔵によらない、園芸作物の新しい流通・貯蔵技術の開発を目指して研究を進めています。具体的には、非生物的ストレスである、エタノール処理や一時的な高温処理をもちいて、そのアプリケーションの方法の最適化やどのような作物に適用しうるかを実験室レベルから実証レベルまで行っています。これらの技術は単に先進国での省エネ・低コストにとどまらず、人口爆発が懸念され、かつ設備などが十分でないため、生産された農産物が無駄に廃棄されている途上国においても、青果物の流通に大いに貢献できるものと考えています。さらにこれらの処理による青果物の品質保持のメカニズムの解明を生理生化学的な見地から行っています。また、エチレン作用を阻害剤である1-Methylcyclopropene (1-MCP) をもちいた、実用化に即した研究も行っています。1-MCPは米国、EU 諸国、オーストラリア、中国等など世界各国で認可され、日本でも昨年、りんご、日本なし、西洋なし、かきに対して使用が認可されています。本研究室では主に日本で生産消費される園芸作物を対象に効果を調べています。これまで香酸カンキツであるスダチやツケナ類であるコマツナなどに対して品質保持の効果をみとめています。専門的にはこれらはクライマクテリック型果実に属さないので学問的にも興味深い知見といえます。また、外国産ではありますが日本で消費量が多いバナナにおいて棚持ち期間の延長効果も認めています。

最近の研究室の研究業績としては、平成22年に日本食品保蔵科学会奨励賞(タイトル：青果物の貯蔵性に及ぼすエタノール蒸気処理の効果に関する生理・生化学的研究)を鈴木が受賞いたしました。また、大学院博士課程(前期課程)を修了した谷野晃正君を筆頭著者として公表した論文に対して日本食品保蔵科学会論文賞が授与されました。平成23年には、神戸大学農学部同窓会六篠業績賞を鈴木が受賞いたしました。この受賞は本研究室における一連の研究成果に対するものであり、本研究室に在籍し研究にたずさわった院生・学生さんには誇りとしていただきたいと思います。同時にいっそうの精進を期待します。また、同じく大学院博士課程(前期課程)を修了した川口敬太君を筆頭著者として公表した論文に対して、日本食品保蔵科学会論文賞が授与されました。この論文は、1-MCPのバナナの棚持ち期間を延長する実用研究に関するもので、1-MCPの使用にあたっての既存の問題点をブレークスルーしたものです。バナナはグローバルなフルーツですので、今後本研究成果が世界的な規模での貢献につながればと思っています。

今後これまで以上に学生さんとともにアクティブに研究を進めていきたいと思っております。園芸保蔵利用学教育研究分野を何卒よろしくお願い申し上げます。

食料共生システム学専攻・生産環境工学大講座

水環境学教育研究分野

教　授　田中丸　治哉
准教授　多田　明夫

水環境学教育研究分野は、農業工学系の研究室では、比較的長い歴史を持つ研究室です。兵庫農科大学の国立移管翌年の1967年に設置された「農業土木学」講座に端を発し、「水利用工学」講座の時代を経て、現在の名称になりました。ここでは、最近の研究室の様子についてご紹介させていただきます。現在の研究室は、教授1名、准教授1名、博士課程後期課程2名、博士課程前期課程2名、学部生5名の合計11名から構成されています。博士課程後期課程2名のうち1名は中国・新疆ウイグル自治区からの留学生、もう1名はスーダン共和国からの留学生です。

水環境学の分野名称から推察される通り、我々の研究室では、地球環境及び地域環境における「水」に関する教育研究を行っています。水に関する研究室は、工学研究科の土木系などにもありますが、主に生物を扱う農学研究科で水について研究するのはなぜでしょうか。それは、農業が最も多く水を使う産業だからです。例えば、コメ1kgの生産には、約3tの水が必要で、牛肉1kgの生産には、飼料栽培を含めて16t近くもの水が使われます。実際、世界全体の水使用量のうち農業用水が7割を占めており、この比率は我が国においてもほぼ同様です。このため、農業生産においては水の確保が大変重要です。水を確保し、資源として有効利用するためには、水の動態を把握する必要があります。地球上の水の循環を中心概念とする学問分野を水文学（すいもんがく）といいますが、我々の研究室では、この水文学を研究の基礎とし、水資源の開発と管理を通じて、社会に貢献することを目標としています。

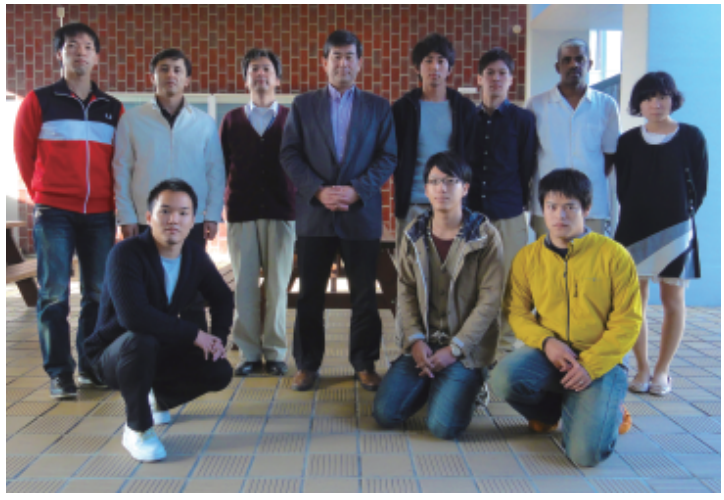
当研究室で取り組んでいる研究課題は、三つに大別されます。第一の課題は、灌漑排水に関する研究です。前任の畑武志教授が在籍しておられたときから、スーダン共和国のゲジラ潅漑地区（世界最大規模の潅漑地区）を対象として、水資源管理と持続的潅漑農業に関する研究を実施してきましたが、現在はスーダン北東部に位置するガッシュデルタを対象として、衛星リモートセンシングを利用した蒸発散量の推定とその応用に関する研究を行っています。また、新疆ウイグル自治区の南西部に位置するチラオアシスを対象として、耕地塩類化の原因と対策、水需給を考慮した作物栽培の季別パターンに関する研究も行っています。これらの研究は留学生が担当し、田中丸と多田が共同で指導しています。

第二の課題は、流域水文に関する研究です。この研究は、試験小流域やダム流域の水文資料に基づいて降雨流出現象の解析を行うもので、具体的な研究テーマは、流出モデル定数の最適化手法、洪水・渇水の予測、緑のダム機能の水文学的評価、海外河川における流出解析、地球温暖化の影響評価など多岐に渡っています。特に力を入れてきたのが、流出モデル定数の最適化手法に関する研究です。降水量から河川流量を求めるための数理モデルを流出モデルといいますが、大抵の流出モデルは、解析者が決定すべき複数の未知パラメータを含んでいます。この研究では、それら未知パラメータを進化型計算法などの最先端の最適化手法に基づいて自動的に決定する手法や、複数の解析目的を同時に満足させるための多目的計画法を応用した最適同定法について検討しています。これらの研究は、主に田中丸が担当しています。

第三の課題は、水質水文に関する研究です。我々は、特に農林地からの物質流出が環境に与える影響について取り組んでいます。汚濁物質の総量を精度良く把握するためには、物質流出の主な駆動力である洪水流出などの水文学的なデータの蓄積に加えて、水質データの高頻度の連続観測値が必要となります。このため水質の現地モニタリングに活用できる分析手法の開発と応用に関する研究を現地と実験室で実施してきました。当研究室で開発された水質モニタリングシステムは、奈良県五條市の山林流域に設置されており、15分間隔で2週間連続の溶存イオン濃度自動観測に成功しています。最近は、濁度の長期連続観測による懸濁物質流出の把握、流域からの物質総量を所定の精度で得るために必要なサンプリング方法の検討にも取り組んでいます。これらの研究は、主に多田が担当しています。

研究室の詳細については、以下のホームページにも掲載しておりますので、是非ご参照下さい。六篠会の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

研究室の詳細ホームページ
http://www.research.kobe-u.ac.jp/ans-water/



生命機能科学専攻・応用生命化学大講座

微生物機能化学教育研究分野

教　授　吉田　健一
准教授　竹中　慎治

微生物機能化学教育研究分野は、1949年篠山に開学された兵庫県立農科大学(神戸大学農学部の前身)の農産加工学講座(麦林 楢太郎先生)を起源とし、本研究科でも最も長い歴史と伝統を誇る研究室のひとつです。同農科大学の国立移管(1969年)や神戸大学の学部改組(1993年)などに伴い年代ごとに次々と名称を変更してきました。まず、醸造学講座(西羅 寛先生)と改称、続いて発酵生産学講座(新家 龍先生)、そしてようやく現在の微生物機能化学教育研究分野(青木 健次先生)という名称が定着しました。この間、当初は醸造に関わる微生物およびその加水分解酵素、麦芽由来のアミラーゼやカビ由来のタンニン分解酵素の特性解析の研究が行われました。その後は、環境保全への関心の高まりから窒素を含む無機・有機化合物の物質循環に関わる微生物の研究が盛んに行われた時期がありました。そして、上記の伝統を引き継ぎながらも新風を吹き込むべく、2009年12月に現在の体制が発足して今日に至ります。

第5代教授の吉田 健一は、枯草菌を中心にバクテリアのゲノム情報に基づく未知遺伝子の機能同定を通じて新規代謝経路や制御機構を解明し、さらにそれらの応用を手がけるなど、基礎から応用を広くカバーする研究を展開しています。特に、バクテリア型イノシトール分解系の全貌解明とその応用については、当該分野の第一人者として国際的に認知されています。自然科学系先端融合研究環「ヘルスバイオサイエンス」重点研究チームに所属して本研究科の他の教育研究分野との連携に取り組む一方、文部科学省JSTの「バイオプロダクション次世代農工連携拠点」プロジェクトのコアメンバーとして農工連携ならびに産学連携を積極的に推進しています。さらに、最近は同じくJSTの「先端的低炭素化技術開発」プロジェクトにも参画して微生物の更なる高度利用技術の開発に注力しています。



准教授の竹中 慎治は、自然界の物質循環における微生物の分解者としての役割に着目し、環境の保全や浄化に役立つ微生物を検索し、その分解特性や代謝酵素系の解析を行ってきました。また、その過程で見出した酵素反応機構を物質変換へ応用する試みにも取り組んでいます。さらに、最近は未利用資源の活用に役立つ産業用酵素を得るために、加水分解酵素を中心に特異な性質を持つ微生物酵素の探索を進めています。

平成23年度10月現在の在学生は2名の留学生を含めて修士課程大学院生を中心に総勢20名です。バチルス属細菌を研究対象とする学生が多いですが、中には植物と共生して窒素固定を行う根粒菌や鰹節製造に利用されるカビを扱う学生もいます。当研究室では、学内外・国内外・産学官の区別を問わず様々な共同研究を実施しており、それが学生諸君のモチベーションを引き上げる一助になっています。ただ、上述の通り現在の研究テーマは最先端のバイオテクノロジーを志向するものが主体となっており、伝統的な醸造および発酵生理学を扱うテーマはほとんど実施できていない状態です。

しかし、日本酒醸造のメッカである灘五郷ご当地の農学研究科にて微生物教育を担う研究室としては、醸造に関する教育を省くことはできません。そこで昨年度一念発起して、学部3年生対象の学生実習にアルコール発酵実験を盛り込むことにしました。とは言え、パン酵母を使ってブドウ糖からアルコールを得るという極めて単純な発酵実験ですが、学生にとっては人生初のアルコール発酵体験となるはずです。勿論、ただ単にアルコールを作るだけでは科学的な教育とは言い難いので、アルコールに伴って発生する二酸化炭素の定量、原料のブドウ糖の消費率の測定などを通じて、発酵現象を定量的に取り扱うことを主眼にしています。ところが、いざこれを実施するとなると酒税法の観点から、国立大学法人として醸造免許を取得することが必要となりました。従って、税務署へ出向いて指導を仰ぎ、およそ半年を費やして神戸大学初の醸造免許をいただきました。これにて大手を振ってアルコール発酵実験を行うことができるようになり、昨年度第1回目の実習を実施することができました。今後この実習は毎年恒例にする予定ですので、将来には卒業生に語り継がれる新たな伝統となるかもしれません。

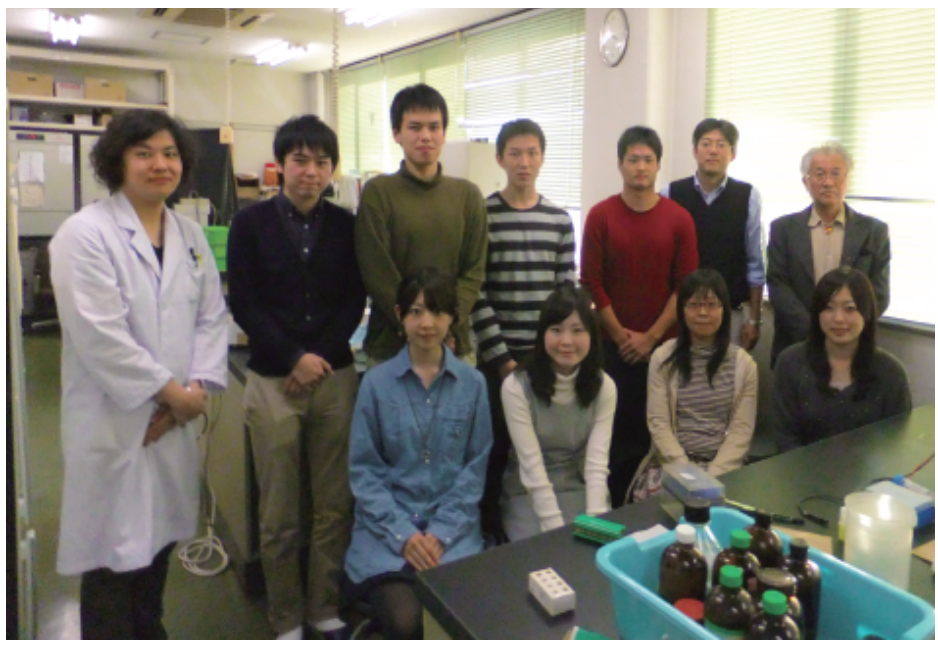
生命機能科学専攻・農環境生物学大講座

細胞機能制御学教育研究分野

教　授　南森　隆司
(神C6回)

植物は基本的に大地に根を張り、色々な環境の変動を被り、それらに適応する能力を具備しています。この機能は、外界の状況をアンテナ分子でキャッチし、細胞内に伝え、遺伝子などに働きかけることで発揮され、植物を生存環境に適応させるものです。これら一連の細胞内分子による情報リレーは、細胞情報伝達過程と呼ばれています。植物細胞が持つこのような機能について細胞レベルあるいは分子レベルで解明し、得られた情報・成果を植物環境適応性・生産性の制御・向上につなげてゆくことを目的として教育・研究を進めています。研究の手法は主に植物生理・生化学あるいは遺伝子工学的な方法を用いています。植物研究において古くからモデルとして研究され、遺伝子の配列情報が植物ではいち早く解読されたシロイヌナズナを実験材料として用いています。最近の研究の1例として、シロイヌナズナの細胞応答に関わるある種のタンパク質をコードする遺伝子を同植物に導入し、そのタンパク質分子を過剰に作るようにしむけた遺伝子組換えシロイヌナズナが、土壌中に比較的高濃度の塩分が存在してもそれに耐性を示し、旺盛に成長することがわかりました。そこで、現在、その遺伝子を、日本人にとって、主食であるイネに導入し、同じように塩分を比較的多量に含む土壌でも旺盛な成長を示し、収量の増加が期待できるかどうかという点に興味を持って実験をおこなっています。

細胞機能制御学教育研究分野は、農学研究科生命機能科学専攻農環境生物学大講座に属しておりまして、当該講座に所属する学生諸君がゼミ生として配属されるとともに研究生活を送っています。現在、大学院博士後期課程の学生1名、同前期課程(修士)が2名、4回生2名、3回生後期から研究室に分属した4名、計9名の学生諸君がおられます。私自身、農学研究科の当該大講座に所属する教員なのですが、一方では、自然科学系先端融合研究環という組織にも所属し、その中の、遺伝子実験センターという学内施設に属しております。卒業生の方はご存知かも知れませんがこの組織の前身は、自然科学研究科です。同センターは六甲台地区にあり農学研究科棟とはほぼ隣接した同じキャンパス内に位置します。遺伝子実験センターは学内共同利用施設でもありまして、農学系のみならず理学系を兼務する教員からなるユニークな施設です。また、理学系、農学系、あるいは工学系の遺伝子実験を行う研究者からの委託を受け、DNA解析などを行い、データーを各研究者にフィードバックする業務や、神戸大学で行われる遺伝子組換え実験の安全性を維持する業務にもかかわっています。また、自然科学系先端融合研究環にはいろいろな重点領域研究チームが組織されておりまして、私が代表をしています環境遺伝子(環境に存在する物質や環境変動によって発現が影響を受ける遺伝子)研究チームもその1つです。これらのチームには教員(助教)が配置されています。環境遺伝子研究チームには、松岡　大介氏(神C27回)が助教として勤務しており、私の研究分野に属し、研究を中心の助教ですが、学生の指導も一部分担しています。細胞機能制御学教育研究分野は、以上のような分野で、現在、植物の環境応答機構の解明に取り組みつつ、農学的な応用を展望しています。ここにあげます写真は、当該教育研究分野で研究する一同が研究室でとったものです。ホームカミングデイなど機会がありましたらまたご訪問ください。



六篠賞

六篠業績賞を受賞して

神戸大学大学院農学研究科　資源生命科学専攻
応用植物学講座　園芸保蔵利用学教育研究分野
鈴木　康生

平成23年10月29日に開催されました神戸大学ホームカミングデイ「農学部企画」にて、六篠業績賞を賜りまして誠にありがとうございました。今回の受賞に際してご検討いただきました六篠会の方々に厚く御礼申し上げます。歴史ある本学農学部同窓会の名を冠した賞であり、大変光栄に思っております。また、当日は多くの同窓会の方々はじめ関係者の前で、本業績に関しての発表の機会をいただきありがとうございました。

今回の受賞は昨年度受賞いたしました、日本食品保蔵科学会奨励賞を評価していただいたものと思っております。日本食品保蔵科学会は、「食品の低温保蔵に関する基礎的研究ならびに応用に関する研究を推進し、生産、貯蔵、加工、流通等の技術およびこれらに関する機器の改善を図り、食品流通の合理化と食生活の安定を企図とすること」を目的としており、会員数は約1､000名の学会です。

受賞題目は「青果物の貯蔵性に及ぼすエタノール蒸気処理の効果に関する生理・生化学的研究」です。本研究は省エネルギー・低コストをコンセプトとした新しい園芸作物の流通・貯蔵技術の開発を目指して行われたものです。この研究ではエタノール蒸気を常時気散するエタノール蒸散剤をもちいた適用方法の実用性を示すとともに、エチレン生合成及び反応性、抗酸化能、クロロフィル分解など青果物の老化に関与する様々な生理現象に及ぼすエタノールの影響について調べ、その老化抑制機構を生理生化学的に明らかにしたものです。

最後になりましたが、本研究に導いて下さいました本研究室教授の寺井弘文先生、そして共同研究者である大学院生及び学部学生に心より御礼申し上げます。今回の受賞は、私にいただいたものというよりは、本研究グループにいただいたものを私が代表していただいたものと思っております。また、本研究を遂行するにあたりご協力してくださいました皆様方に感謝申し上げます。今後一層研究に精進して、クオリティーの高い研究を学生とともに推進してまいりたいと思っております。皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

六篠若手賞を受賞して

神戸大学自然科学系先端融合研究環重点研究部
西谷　洋輔

この度、栄えある六篠若手賞を賜り誠に光栄に存じます。この賞の授与につきまして御検討頂いた方々、六篠会事務局の方々、さらに六篠会会員の皆様に心より御礼申し上げます。今回の受賞につきましては、平成21年度（財）日本ビフィズス菌センター研究奨励賞の受賞を評価頂いたと思っております。本奨励賞は、腸内細菌学に関連する広い分野（腸管免疫学・プロバイオティクス・プレバイオティクス・感染防御学等）において、学術上または産業上将来の発展を期待しうる優秀な研究業績をあげた個人に対し授与する（財団規定より抜粋）と謳われております。受賞対象の研究としては、*Lactococcus lactis subsp. cremoris* FCという乳酸菌について腸炎抑制作用およびその機序の解明を行ったものです。ヨーグルトやチーズ、漬物などに含まれる乳酸菌をはじめとするプロバイオティクスの効果については様々な報告がありますが、その機序についてはまだまだ未解明であることが多いのが現状です。今回は特に、腸管における免疫システムをモデル化した培養器を用いて細胞レベルの実験で得られた結果を、動物個体においても確認したことが評価されたものと思っております。今後は神戸大学農学部出身者として教育や研究に精進していく所存ですので、今後とも御指導のほど宜しくお願い致します。今回の受賞につきましては、御指導頂きました先生方、ならびに研究の遂行にご協力頂いた卒業生や研究室の学生諸氏に厚く御礼申し上げます。

六篠奨励賞を受賞して

応用動物学講座 組織生理学
万谷　洋平

この度は、栄誉ある六篠賞を受賞することができ、六篠会会員の皆様に心より御礼申し上げます。この受賞を励みとして、後期課程ではより一層努力を重ね、これからの社会で活躍できる研究者になろうと思っています。

応用植物学講座 植物遺伝資源開発学
松村　有一郎

このたびは名誉ある本賞を賜り、大変光栄に感じております。ご指導ご協力くださった多くの方々には、改めて感謝申し上げます。この賞を励みに、今後も社会で活躍したいと思います。

応用植物学講座 花卉野菜園芸学
工藤　啓太

この度、六篠賞をいただき大変嬉しく光栄に思っております。私を支えてくださった花卉野菜園芸学研究室の皆様、当時のアルバイト先である、ねぎ焼やまもとの皆様、そして家族に心より感謝いたします。

農環境生物学講座 細胞機能構造学
北岡　治正

神戸大学農学部の先輩方からの激励として六篠賞を受賞したことを、大変嬉しく思います。今回は研究室での活動を評価していただきましたが、今後はその経験を活かして会社での仕事に取り組みたいと思います。

六篠学生賞を受賞して

植物資源学科
森田　耕一

大学卒業に際しこのような賞を受け身に余る思いです。4年間自由な環境の中で農学を学ぶ機会を与えられたことのありがたみを決して忘れません。また日々の支えとなった大学で出会った仲間や家族に深く感謝します。

植物資源学科
東　若菜

今回このような素晴らしい賞をいただき、4年間頑張ってきて本当によかったと感じました。一緒に助け合える友達、興味深い授業をしてくださった先生方に恵まれたことが、何よりの糧です。感謝の気持ちで一杯です。

生物環境制御学科
森　芳直

今回、六篠学生賞という栄誉ある賞を頂きありがとうございます。大変嬉しく、光栄に思います。最近これらの賞ができたということで、学生にとって大きな励みになります。今回の受賞を糧に今後とも頑張りたいです。

生物環境制御学科
岡本　裕樹

この度栄誉ある賞を受賞させていただき、光栄に存じます。この賞に恥じぬよう、今後も植物遺伝学研究室での研究活動に励み、成果をあげたいと思っております。お世話になった方々にも感謝申し上げたいと思います。

食料生産環境工学科
末宗　淳子

この度は、六篠学生賞という素晴らしい賞をいただき、本当にありがとうございます。大学4年間で学んだことを糧にして、社会に貢献できる人材に成長できるよう努力してまいります。ありがとうございました。

食料生産環境工学科
島田　遥

先生方の丁寧なご指導や同級生の励まし、家族の応援により六篠学生賞という大変光栄な賞をいただくことができました。皆様への感謝の気持ちを忘れずに、大学院進学後も栄誉に恥じないよう研究を続けたいと思います。



北浦会長と水野氏

同窓会報告

平成22年度庶務報告

平成22年度の一般事業として入学者記念品贈呈、会費納入促進、会報発行、各支部活動・学友会・KUC援助、農学部援助、六甲マラソン大会援助、手提げ袋贈呈、卒業祝賀会援助、慶弔関連などを行いました。また、学術振興事業として生命科学専攻主催の学術講演3件、大学院生の海外渡航4件に対して援助を行い、優秀な業績を残した教員および学生に六篠賞の授与を行いました。

平成23年度についても、例年同様、一般事業および学術振興事業を維持していくことが代議員総会で承認されましたので、それに基づき現在活動しているところです。

■役　員

会　長(学友会)	北浦　義久	(兵　A６)
副会長(KUC)	能宗　康夫	(兵　C２)
副会長(学友会)	王子　善清	(兵C１２)
副会長(代表理事/KUC)	中村　直彦	(神　Z１)
副会長	伊藤　一幸	(神　A４)
副会長	橋本　宏之	(神　Z７)
副会長	三浦　恒夫	(神　A９)
理　事	大西　成己	(鶴　　３)
理　事	阪上　昭宏	(鶴　　３)
理　事	三木　啓造	(兵　Z９)
理　事(ホームカミングデイ)	山本　博昭	(神A１２)
理　事(KUC)	石賀　暢一	(神　C１)

■役　員

理事(副代表理事)	宮島　康彦	(神P２３回)
理事(名簿)	菅原　通直	(神　C４)
理事(会報)	松山　稔	(神P１４)
理事(庶務)	橋本　堂史	(博後H１４年卒)
理事(会計／会報)	宇野　雄一	(博後H８年卒)
監　事	辻　　荘一	(兵Z１２)
監　事	外山　眞理	(神　C８)
顧　問(学友会)	西川　欣一	(兵　A１)
顧　問	東　　順三	(兵　C１)
顧　問	田中　平義	(兵　C１)
顧　問	新家　　龍	(兵　C５)

■六篠会代議員

松浦　良彦	(兵　A１)
安尾　　勲	(鶴２・兵C５)
土佐　　正	(鶴４・兵A７)
財田　福雄	(鶴　　５)
小田垣博三	(兵　A９)
酒井　　修	(兵　A９)
住田　昭男	(兵Z１０)
坂井　永利	(兵A１２)
永吉　照人	(兵A１３)
置塩　康之	(兵A１４)
松井　　功	(兵T１６)

■六篠会代議員

西尾　　司	(兵Z１６)
中西　三生	(兵Z１７)
得丸　哲士	(神　Z２)
松本　幹夫	(神　A３)
矢代　　学	(神P１０)
門岡　織江	(神P１７)
八木　　剛	(神P２２)
鈴木　武志	(神C２３)
岸谷　靖雄	(兵A１０) 関東支部長
長谷川信弘	(兵C１６) 東海支部長
番匠　宏行	(兵Z１３) 広島支部長

●学術講演会援助

主　催　専　攻	開 催 日	講　演　題　目(講　演　者)	参加数
生命機能科学専攻 応用生命化学講座	2010/08/31	神経細胞樹状突起スパイン形態制御メカニズム (群馬大学大学院　医学研究科　教授白尾智明)	20名
生命機能科学専攻 応用生命化学講座	2010/12/17	Study of the P450 CYP714J (フランス　ナンシー大学環境農学研究所　Alain Hehn 准教授) Plants as Factories for the production of valuable secondary metabolites and recombinant proteins (フランス　ナンシー大学環境農学研究所　Frederic Bourgaud 教授)	20名
生命機能科学専攻 応用生命化学講座	2011/03/09	Frankia, symbiotic actinobacteria living in harmony (フランス　リヨン大学　Petar PUJIC 博士)	20名

●海外渡航援助

嶋津 小百合	応用生命化学講座・生物機能開発化学/D1 The 2010 international Chemical Congress of Pacific Basin Societies The 2010international Chemical Congress of Pacific Basin Societies アメリカ・ホノルル/2010.12.15-20
桃田　拓郎	応用生命化学講座・食品・栄養化学/M2 International Society for Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF) Annual Conference インドネシア・バリ/2010.10.11-15
龍　　建盛	応用生命化学講座・食品・栄養化学/M2 International Society for Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF) Annual Conference インドネシア・バリ/2010.10.11-15
下秋　智寛	応用生命化学講座・食品・栄養化学/M2 International Society for Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF) Annual Conference インドネシア・バリ/2010.10.11-15

●六篠賞

	受賞者		受賞対象（奨励賞は論文課題）	
特別賞	該当者なし			
業績賞（1名）	鈴木 康生（応用植物学講座・園芸保蔵利用学）		日本食品保蔵科学会奨励賞 「青果物の貯蔵性に及ぼすエタノール蒸気処理の効果に関する生理・生化学的研究」	
若手賞（2名）	本多 健（応用動物学講座・動物遺伝資源開発化学）		日本畜産学会奨励賞「黒毛和種の遺伝的多様性に関する研究」	
	西谷 洋輔（応用生命化学講座・糖鎖機能化学）		日本ビフィズス菌センター研究奨励賞 「In vitro腸炎モデルを用いたLactococcus lactis subsp. cremoris FCの抗炎症作用機序の解明」	
奨励賞（11名）	花澤　貴文	生産環境工学講座	竹之内　亮	生産環境工学講座
	小森　崇史	食料環境経済学講座	万谷　洋平	応用動物学講座
	松村有一郎	応用植物学講座	工藤　啓太	応用植物学講座
	今田小有里	応用生命化学講座	梶村　友則	農環境生物学講座
	倉橋　夢人	農環境生物学講座	北岡　治正	農環境生物学講座
	水野　信之	農環境生物学講座　※博士課程後期課程		
学生賞（11名）	段上めぐみ	応用動物学科	加山　絵理	応用動物学科
	森田　耕一	植物資源学科	東　若菜	植物資源学科
	森　芳直	生物環境制御学科	岡本　裕樹	生物環境制御学科
	梅田　麻代	生物機能化学科	野村　早紀	生物機能化学科
	村上　絢野	生物機能化学科	末宗　淳子	食料生産環境工学科
	島田　遥	食料生産環境工学科		

●22年度事業報告　一般事業

項目		時期	内容
入学者記念品贈呈		4月	新入学者・進学者中の会員数 学部156名（入学者178名） 修士122名（入学者140名） 博士12名（進・入学者20名）
活動援助	KUC		運営委員会（4回） 講演会（2回）及び行事（2回） 「神戸大学学長を励ます会」 進水式（川崎重工業株式会） 定例講演会「民主党政権のこれから」 新春講演会「企業経験を神戸大学に生かす!」
支部総会	県六篠会	6月	支部総会　6月26日（北浦会長、内田学部長出席）
	広島	9月	支部総会　9月25日（北浦会長出席）
	関東	10月	支部総会10月20日（北浦会長出席）
	東海	10月	支部総会10月24日（北浦会長出席）
	KOBE六篠会	11月	支部総会11月12日（北浦会長、内田農学部長出席）
六甲祭援助		8月	11月13日、14日開催
農学部援助		7月 11月	施設使用料及び運営費
会報発行		12月	8,200部（7,207部発送）
六甲山マラソン大会		12月	12月19日開催
卒業式用手提げ袋贈呈		3月	卒業生181名（内1名は9月卒業）
卒業記念パーティ援助		3月	修了生134名（内5名は9月修了）

■慶弔関連

以下の方々がご逝去なされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

小林　潤	（旧教官）	山中　芳郎	（鶴2回）
西川　登美夫	（鶴3回）	西田　誠	（鶴1回）
松村　康正	（兵A10回）	藤田　正子	（兵A17回）
河北　明	（兵C2回）	是枝　哲士	（兵C3回）
熊谷（姜）岩童	（兵Z17回）	谷口　勇	（兵A3回）
前川　季義	（兵C10回）		

（順不同・敬称略）

■退職および着任教員

退職および着任された先生方をお知らせします。（敬称略）

●定年退職された職員（平成22年3月31日退職）

定年延長のため22年度（23年3月）に定年退職される先生はございません。

●着任された教員

李　智博	応用動物学講座、発生工学
藍原　祥子	応用生命化学講座、食品・栄養化学
松尾　栄子	応用動物学講座、感染症制御学
久世　雅樹	応用生命化学講座、天然有機分子化学

平成22年度事業報告・決算　平成23年度事業計画・予算

六篠会　平成22年度一般会計決算

収　入	7,720,763円
支　出	7,696,124円
残　高	24,639円

■収入の部

項　目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-：減)	備　考
入会金	7,000,000	6,983,250	-16,750	40,000円×176名（振込手数料56,750円）
雑収入	1,000	5,012	4,012	普通預金口座利息および名簿販売
前年度からの繰越金	732,501	732,501	0	
合　計	7,733,501	7,720,763	-12,738	

■支出の部

項　目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-：減)	備　考
農学部援助金	550,000	550,000	0	構内整備等、振込手数料
一般事業費				
会報発行費	1,600,000	1,365,744	-234,256	年一回(約8,000部)
各種活動援助費	700,000	396,530	-303,470	支部活動・学生活動支援
卒業記念祝賀費	350,000	300,000	-50,000	祝賀会援助
卒業者名簿等管理費	1,000,000	0	-1,000,000	
代議員総会経費	1,000,000	205,380	-794,620	
一般事務費	600,000	488,014	-111,986	事務アルバイト代、郵送料等
会議費	300,000	207,144	-92,856	理事会
旅費	100,000	42,820	-57,180	
慶弔費	250,000	83,622	-166,378	電報等
交際費	230,000	153,050	-76,950	KUC活動等
褒賞費	100,000	0	-100,000	
役員活動費	550,000	294,270	-255,730	
神戸大学学友会費	120,000	110,630	-9,370	年会費、編集委員会会費等
繰り出し金	0	3,000,000	3,000,000	
予備費	283,501	498,920	215,419	入学記念品
支出合計	7,733,501	7,696,124	-37,377	
次年度への繰越金	0	24,639	24,639	
合　計	7,733,501	7,720,763	-12,738	

六篠会　平成22年度六篠会基金決算

収　入	43,854,316円
支　出	908,703円
残　高	42,945,613円

■収入の部

項　目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-：減)	備　考
前年度からの繰越金	40,836,407	40,836,407	0	
繰入金	0	3,000,000	3,000,000	一般会計からの繰り入れ
雑収入	30,000	17,909	-12,091	大口定期・普通預金利息
合　計	40,866,407	43,854,316	2,987,909	

■支出の部

項　目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-：減)	備　考
学術活動援助費	400,000	60,000	-340,000	20,000円×3件
六篠賞	1,000,000	528,703	-471,297	副賞、賞状
海外渡航援助費	500,000	320,000	-180,000	
予備費	100,000	0	-100,000	
支出計	2,000,000	908,703	-1,091,297	
保留金	38,866,407	42,945,613	4,079,206	
合　計	40,866,407	43,854,316	2,987,909	

六篠会　平成23年度一般会計予算

■収入の部

項　目	23年度予算案(円)	22年度予算(円)	増減(-:減)	備　考
入会金	7,000,000	7,000,000	0	40,000円×約180名（ー振込み手数料）
雑収入	1,000	1,000	0	普通預金口座利息
前年度からの繰越金	24,639	732,501	-707,862	
合　計	7,025,639	7,733,501	-707,862	

■支出の部

項　目	23年度予算案(円)	22年度予算(円)	増減(-:減)	備　考
農学部援助費	550,000	550,000	0	構内整備等、振込手数料
一般事業費				
会報発行費	1,600,000	1,600,000	0	年一回(約8,200部)
各種活動援助費	700,000	700,000	0	支部活動・学生活動支援
入学記念祝賀費	500,000		500,000	USBメモリ
卒業記念祝賀費	350,000	350,000	0	祝賀会援助、紙袋代
卒業者名簿等管理費	100,000	1,000,000	-900,000	
代議員総会経費	250,000	1,000,000	-750,000	
一般事務費	1,000,000	600,000	400,000	事務アルバイト代、郵送料等
会議費	300,000	300,000	0	理事会
旅費	150,000	100,000	50,000	
慶弔費	250,000	250,000	0	定年退職教員への記念品、電報
交際費	230,000	230,000	0	KUC活動等
褒賞費	100,000	100,000	0	
役員活動費	550,000	550,000	0	
神戸大学学友会費	120,000	120,000	0	年会費、編集委員会会費等
繰り出し金	0	0	0	六篠会基金へ繰り出し
予備費	275,639	283,501	-7,862	
合　計	7,025,639	7,733,501	-707,862	

六篠会　平成23年度六篠会基金予算

■収入の部

項　目	23年度予算案(円)	22年度予算(円)	増減(-:減)	備　考
前年度からの繰越金	42,945,613	40,836,407	2,109,206	
繰入金	0	0	0	一般会計からの繰り入れ
雑収入	30,000	30,000	0	大口定期・普通預金利息
合　計	42,975,613	40,866,407	2,109,206	

■支出の部

項　目	23年度予算案(円)	22年度予算(円)	増減(-:減)	備　考
学術活動援助費	400,000	400,000	0	
六篠賞	1,000,000	1,000,000	0	
海外渡航援助費	500,000	500,000	0	
予備費	100,000	100,000	0	
支出計	2,000,000	2,000,000	0	
保留金	40,975,613	38,866,407	2,109,206	
合　計	40,975,613	40,866,407	2,109,206	

同窓会事務局の案内

会員の皆様からの本会へのご連絡をFAX、e-mailで受付けております。住所や連絡先の変更、また本会に対するご要望、ご意見などお待ちしております。なおご連絡の際には、所属学科、卒業年次、送付物の宛名シールの右下に記載されている個人コードを併せてお伝え頂くようお願い申し上げます。

- FAX:078-881-2752
- e-mail:ans-rikusou@edu.kobe-u.ac.jp
- ホームページ
  http://www.ans.kobe-u.ac.jp/sotugyousei/index.html

編集後記

六篠会会員の皆様、ご活躍のことお喜び申し上げます。また、この度の東日本大震災により被災された会員の皆様とそのご家族の皆様には心よりお見舞い申し上げます。一日も早い被災地の復興をお祈り申し上げます。

今回は、編集担当者が交代し、新メンバーで会報を担当することになりました。筆者は、これまで毎年送られてくる会報を当たり前のように手にしていましたが、発行部数が八千部を超えていると知り、大変な仕事だなあと重責を感じています。

編集に当たり、多くの同窓生の方々にご協力をいただき、今年も何とか無事に会報をお届けすることができました。また、お忙しい中、快く原稿を引き受けて頂いた方々にこの場を借りましてお礼申し上げます。ありがとうございました。

今回の会報には、六篠学生賞受賞者の皆さんの感想も載せております。今後のご活躍をお祈りしますとともに、これからは後輩達へのご指導もよろしくお願いいたします。

表紙の写真は農学部ロータリーの建物案内表示です。ホームカミングデイで久しぶりに農学部を訪ねました。筆者が卒業した一九八五年頃と比べると、建物が建て込んで窮屈さを感じました。神戸大学は大きく発展しているのだと心強く思う反面、子供の頃の空き地を懐かしく感じるような寂しさを少し覚えました。研究棟の裏に「ボール遊び厳禁」の張り紙がありました。今回、ご寄稿いただいた先輩も、昔ソフトボールで若いエネルギーを発散されていたそうですが、後輩の皆さんは元気を持てあましているかもしれませんね。

時代に合わせて紙面の内容充実を図っていきたいと思います。どんなことでも結構です。エッセイ、コラムなど同窓会事務局の方にお送り下さい。ホームページを立ち上げて情報発信されている方もおられると思います。会報を情報交流の場に活用してみてはいかがでしょうか。楽しく、面白く、役に立つ同窓会員のための情報紙となることを目指して努力していきたいと思います。また、「こんなことをもっと載せてほしい！」、「この企画は面白くないから削除！」など、ご意見がございましたら、会報担当理事までお申し付け下さい。

二〇一二年が良い年でありますよう、また、皆様のご健勝、ご多幸とご活躍を祈念いたします。

（会報担当理事一同）